



歴史文化

『歴史を訪ねて』

高鍋城址に行く

「高鍋藩物語」

九世紀の半ば、財部（現在の高鍋町）は県（現在の延岡市）の豪族・土持氏の勢力下に入り、その支配は六〇〇年に及びました。

土持氏の先祖は豊前の宇佐八幡宮造營使でした。八世紀、薩摩隼人の乱を平定して朝廷から日向国を下賜され、県を中心に勢力を伸ばしました。

最初に財部を治めたのは土持秀綱。高鍋城の基となる財部城を築きました。しかし、十五世紀に、都於郡の伊東

氏を討とうとして逆に攻め入れられ、降伏。以後一二〇年間（一四五七〜一五七七）伊東氏が支配。その伊東氏も島津に敗退し、その後は島津氏が支配していました。

十六世紀末の一五八七年、ようやく豊臣秀吉が九州を平定、筑前から秋月氏が移封されてきました。

「高鍋」と改称されたのは、第三代藩主秋月種信の時。以後薩摩藩置県を迎える第十代藩主種殷まで、当時でもまれな善政が続きました。

「秋月種茂公と上杉鷹山公」

秋月種茂は一七四三年、高鍋藩六代藩主秋月種美公の長男として江戸藩邸に生まれ、家督を相続して入封しています。旧弊にとられず有能であれば家柄に関係なく人材を登用し、藩政全般にわたりさまざまな施策を実現しています。大規模な開墾事業、用水路の築造、換金作物の奨励、さらに庶民の生活にも心を用い、農民に児童手当、双生児などには身分を問わず扶助しました。

また、種茂は建学の精神のもと、藩校「明倫堂」を創設し、子弟教育に大きく踏み出しました。そして「明倫堂」からは多くの逸材を輩出しました。

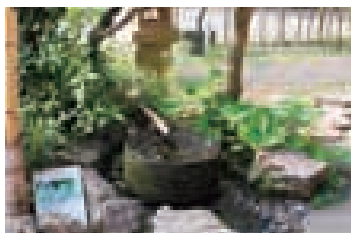
上杉鷹山は一七五一年、高鍋藩第六代藩主秋月種美公の次男として生まれ、八歳のとき母方の遠縁にあたる上杉家の養子になりました。そのとき米沢藩は崩壊寸前の状態でした。そこで藩政の改革を行い、大検約令を出し、農村の振興に力を入れ、米沢織など地域の特産品を開発して米沢の経済復興に力を注ぎました。さらに、「国づくりは人づくり、人が育てば国は興る」を理念に、藩校「興譲館」を再興して、教学の振興、人材教育を行いました。

秋月種茂、上杉鷹山兄弟そろって、名君として庶民のための善政に尽力しました。



萬歳亭はなれ

秋月家第11代当主種樹公の住家が萬歳亭。昭和17年、萬歳亭の主屋は取り壊されましたが、はなれはそのまま、種英公が書齋として愛用していました。元のはなれは老朽化により解体、現在の建物は昭和61年に復元されたものです。簡素で美しい庭と水琴窟が見られます。



水琴窟

手水鉢の近くに穴を掘って石を敷きつめ、底の空いた土瓶を逆さに埋め込み、さらにその周りを石で固めたもの。手を洗ったときの水滴や雨水などの滴音が中の空洞に反響し、琴を爪弾くような美しく涼やかな音色を発します。

明倫堂・秋月穀堂書庫

町立図書館の敷地内にある2棟の書庫は、昭和29年に財団法人正幸会によって移築、寄付されたものです。東側が明倫堂書庫、西側が秋月穀堂書庫です。明倫堂書庫は旧高鍋藩校「明倫堂」で使用した書籍類を、秋月穀堂書庫は高鍋町役出身で元オーストリア大使の秋月左都夫（号は穀堂）関係の書籍を収蔵しています。現在は両書庫の収蔵書籍を総称して明倫堂文庫と呼び、諸家文書等も加わり、総数1万6千冊を収蔵しています。



秋月兄弟——

町民が誇りを持って語る秋月兄弟 高鍋町が「歴史と文教のまち」と 称されるようになった先達です